

総務常任委員会視察報告書

総務常任委員会委員長 奥村孝宏

1 日 に ち	令和4年10月25日（火） 13時10分～15時00分
2 視 察 先	神奈川県横須賀市
3 参 加 者	委員長：奥村孝宏 副委員長：仙石三喜男 委員：片山竜美、城處裕二、吉田企貴、若林正人、石田浩司 消防長：加藤 繁 議会事務局長：河地孝彦
4 調 査 内 容	通信指令業務の広域化について
5 所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等	<p>横須賀市（388,078人）は神奈川県南東部の三浦半島に位置する。</p> <p>平成25年から南側に隣接する三浦市（42,069人）、また、平成27年から西側に隣接する葉山町（31,665人）と消防指令業務の共同運用を行っている。</p> <p>消防指令業務の共同運用については、本市も令和8年の運用開始に向けて東濃5市で協議を進めているところであり、先進市の共同運用までの経緯のほか、実施状況や課題などを直接伺うことを目的に今回視察させていただいた。</p> <p>【主な質疑内容】</p> <p>質問：共同運用に向けた協議の経緯はどのようなか？ 回答：神奈川県下で、政令指定都市（横浜、川崎、相模原）を除いた市町でエリアごとに共同化の検討を行い、横須賀市は平成20年に三浦半島の4市1町（横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町）で検討委員会を設置し検討を進めた結果、鎌倉市と逗子市が離脱し、現在の2市1町となった。</p> <p>質問：単独整備と比べ、整備費用はどの程度削減されたか？ 回答：平成25年の三浦市と共同運用を開始した際は、横須賀市が単独で整備すると7億5,000万円が6億5,500万円と9,500万円低減化された。</p> <p>質問：共同運用のデメリットはないか？ 回答：ない。</p> <p>質問：検討時はデメリットと考えていたことはないか？ 回答：ない。</p> <p>質問：通信指令業務は3市町の消防職員で構成されているが、年次休暇等で欠員が生じた場合はどこから補填するのか？ 回答：基本的に1名減までは対応するが、それ以上の場合は欠員となる消防本部から応援をしていただく。</p>

【所感、提言事項等】

今回伺った消防指令センターは横須賀中央駅から近い横須賀市役所の分館にあり、市役所機能と一体化していると感じた。

人力的には、共同運用を行ったことで、横須賀市、三浦市、葉山町ともそれぞれ3人の人員減となり、出動隊等への配置換えを行っている。

次に、直接的な市民サービスとしては、3市町での応援体制が確立したことで、相互に消防車や救急車が出動することを可能とした。特に市境などでは到着時間の短縮につながっている。

さらに、コロナ禍等で救急車が全て出動してしまい自身の救急車がゼロになった場合でも隣接市町の救急車に出動指令を行うことが可能となっている。

また、当初は、市によって消防団の出動基準が一律ではなかったが統一を行った。出動の際には、未設置だった消防団詰め所等にもファックスを新設し、現在は一律にファックスとメールで連絡を行っている。

共同運用に向けた市民への周知は、パブリックコメント、報道機関への情報提供、市広報誌への掲載等を実施した。

最後に、横須賀市は、共同運用を行っている三浦市と葉山町とは人口規模が大きく異なっていることから、無線用語など多くの事柄が横須賀市に準じて行われている。

現在検討されている東濃5市での協議では、人口最大都市の本市がイニシアティブを発揮し、より良い共同運用ができるように議会としても協力していきたい。

6 写 真 等



横須賀市役所前にて

※視察先1件に1枚作成すること。